

- | No. | 本学会が分科・細目表に人間工学を要望することに関するご意見を自由にご記入下さい。  |
|-----|---|
| 1   | かつて、人間工学が分科にないことで、苦労しましたが、現在は、むしろ分科に人間工学がないほうが良いと考えています。世の流れは、「人間工学が専門です」というだけで、実は、人間工学でない研究が多々あります。人間工学を分科に挙げるのであるならば、「人間工学は学際領域で。。。」的な、All OKの定義をあらためるべきだと思います。人間を測れば人間工学、アンケートを取れば人間工学、使いやすさについて記述されていれば人間工学の論文では、混乱を招くだけだと思います。 |
| 2   | 新たに「人間工学」を導入し、多くの人間工学研究者が研究資金を獲得できれば、社会的にもより認知される研究領域になると思います。ぜひ、よろしくお願いいたします。  |
| 3   | 人間工学という枠組み(分科)の中に、細目をいくつか設けることで、こういったものも人間工学の範疇にはいるのかということが、改めて整理されると思う。  |
| 4   | 人間工学の歴史と重要性を考えると、科研費の分科・細目表に人間工学を明確に位置付けることは遅きに失したと思うが、今からでも要望することは必要である。   |
| 5   | 是非お願いします。大学ではどのくらい研究費をとってこられるかという点も業績評価の対象がありますが、人間工学は細目名などがなく、この領域の研究者はかなり学内競争では不利を被っているのが現状です。学会としてそのような要望・取り組みをしていただけることを期待して  |
| 6   | 大変良いことであると思っております。是非、やっていただきたいと思っております。   |
| 7   | 1つの選択肢として存在していることは望ましいと考える。しかし、分科や細目は、あくまで申請する研究内容に最もフィットする分野を選択すべきであろう。  |
| 8   | 人間工学は学際的であるがゆえに、科研費の審査委員の選定が難しいと思われる。ただ、学会の規模などを踏まえると、分科・細目表に人間工学があると望ましい。  |
| 9   | 人間工学を社会的に適切に普及させる点で重要であると思っておりますので、ぜひ推進していただきたいです。  |
| 10  | 様々な学問分野との連携をしてより学際的な研究調査を行うこと。産学連携・官民連携といった実践が現在では盛んにおこなわれているので、人間工学もそのような取り組みをこれまで以上に振興して社会に対する有用性をアピールすべきだ。   |
| 11  | もっと積極的に情報発信して下さい。   |
| 12  | 複数の細目名の中に人間工学と関連する内容があり、どの細目で応募すると採択されやすいかがわからない。研究内容と応募分野の関連などについて他学会との調整や整理も必要と思  |
| 13  | 人間工学の分野は多岐にわたり、所属や専門も大きく異なる。要望に際しては、人間工学会のこれまでの系譜を良く踏まえた上で、やり方を議論してからのほうが良い。<br>既に人間工学などという細目がなくても科研費を獲得している人間工学会の研究者はいるわけであり、それらの人々の意見を聞かずただ「人間工学細目がないから獲得できない」などと言っている不勉強な人間だけの意見を多く獲るなら、結局は細目はいずれ消滅する。                           |
| 14  | 現在、情報処理の分野では人材不足が叫ばれている。しかしながら、その実態を人間工学的に研究すればムダだらけであり、個人の能力を100%生かしているとは考えられない。このような分野で、人間工学的研究を活用することは経済活動の観点から大きな意義がある。人間工学を他の分野の配下に必ず設置し、人間工学の観点からものごとを捉え直すことができれば、科学研究全分野の社会・経済活動視点での底上げ(地位向上・影響力の拡大)が可能となる                   |
| 15  | ご苦労様です。現在小生も少なからず、人間工学的な分野で活動しておりますが、分野が無く産業衛生で提出しております。できれば、今後その分野での申請ができれば有り難いことです。よろしく御願いたします。   |
| 16  | 20数年の間、科研費を申請するたびに、「人間工学」分野が範疇として存在しないことを、疑問に思っておりました。今回、学会でこの問題を取り上げていただき、大変救われる思いです。21世紀において人間工学は重要な位置を占める学問として発展することが期待されます。是非とも、科研費の分科細目表に「人間工学」が採用されますことを強く希望します。  |
| 17  | 人間工学の発展には不可欠なプロセスであると考えます。分科・細目表にその名が登場する日を期待しております。  |
| 18  | 科研費に応募する際、自分の研究テーマと合致する細目がなく、毎回、応募する分野を悩んでいるので人間工学が分科あるいは細目としてあれば大変助かります。   |
| 19  | 学会が主導になって、文科省に働きかけをして欲しい。是非とも人間工学という項目を作っていただきたい。   |
| 20  | キーワード或は細目としてあることはよいと思うが、分野のような大きなくりで人間工学を設定しても独自性を持って存在し得ないように思える   |
| 21  | 心理学・工学・医学・生理学・・・など、様々な領域が関わるため、細目で分類する際には各々の分野を網羅しつつも分かりやすいネーミングが必要である。<br>他の分野・分科・細目と混同しないように工夫する必要がある。<br>科学研究費は件数によって各分科・細目への配分比率が変動する。したがって、もしも分科細目の実現した場合は、学会をあげて申請件数を確保していく必要がある。   |

- 22 応募資格がないため、応募を検討したことがありません。しかし、分野や細目などで、人間工学というキーワードを記載していただきたいと思います。JST等、他の競争的資金でも、人間工学という分野があれば、応募したいと思います。
- 23 人間工学はさまざまな分野と関わる大切な分野であるにもかかわらず、なお認知度が低いと感じることが多い。大学でも人間工学を学科や専攻として設けているところは未だに少ない。科研費の応募にあたっては事例ごとに該当する分野に応募すればよいという考え方もあるかもしれないが、それでは「人間工学」という特徴が表に出ないし、人間工学の分野でさまざまな研究を比較し、その中でも優れたものに研究費を割り当てるべきであると考えられる。科研費の細目に人間工学が採録されることで、人間工学という分野の認知度も高まると考えられるため、ぜひとも実現していただきたいと考えている。
- 24 大変良い活動と思っています。現在は、公設試験研究機関所属なので、申請出来ませんが、採択されることを希望しています。
- 25 人間工学は様々な領域に含まれるため、現在の領域、分科の項目ではあちこちにキーワードで入れるという方法もあるかもしれない。しかし、古色蒼然とした学問領域の分け方ではなく、課題優先のような全く別の観点から領域を作り直すというようなことが科学研究費の補助金には必要なのではないかと思う。総合新領域も評価はできるが、もっと課題を中心とした領域の分類となれば、人間工学は一つの分科として成り立つと思われる。このような領域の全面的な作り替えも含めて提案するほうがよいと思う。
- 26 遅いです。もっと早くから上の人に言っても対応がなされていなくてあきらめていました。
- 27 これまでになかった事がおかしい。なかったことで人間工学の研究者は大きな不利益を被っていると思う。
- 28 後進のために、道を開いてください。よろしくお願い致します。
- 29 医学、工学、看護福祉学、産業マネジメント等、幅広い展開が必要とされているので、単なるキーワード的扱いから格上げされるべきである。
- 30 人間工学の必要性を広く認知させるために、是非、要望を提出して欲しい。人間工学の研究には、必要経費(測定器、被験者費用など)がかかるため、補助金は必要と考える。
- 31 科研へのアプライをためらう理由の一つが、ここで問題提起されているとおり、表にないことでした。これはすなわち、無理して他の分科・細目でアプライするしかなく、扱いも(内容を正しく理解して貰えない可能性が高いという意味で)不利になるであろうと想像されます。
- 32 必要だと思う。人、もの、動作などに関する研究はいろいろな分野がかかわっているのだから、審査の先生の専門によっては理解してもらえないのではないかと心配になる。
- 33 人間工学の視界は広い。デザインと同じで、単一の束ではくれない。そうするとキーワードで広範囲に対応しなくてはならなくなる。審査される立場なので、自己の意見を強く主張するのは困難であるが、従来の区分システムに囚われると新しい視点や新分野への発想が出にくくなる。
- 34 必要だと思います。
- 35 分科・細目表に人間工学を要望することに賛成です。人間工学が設定されていると、科研に応募しやすくなります。
- 36 科学研究費補助金は、今のご時世だと目先の効果がある研究にしか出ないというイメージがあります。しかし、基礎研究を大事にしなければ、この先必ず技術の発展が止まってしまう時が来ると感じています。人間工学は、科学研究費補助金が出にくい分野であると感じているため、細目表に人間工学を是非入れて欲しいです。
- 37 人間工学で、細目表に記載されると本当によいと思っています。
- 38 適切な審査(適切な審査者の選定)のため、「分科」として「人間工学」があることが望ましいと思います。
- 39 専門が人間工学ではないため、分からない。
- 40 「人間工学」として細目を作らないほうが 科研費は通りやすいと思うが、文科省から認知されるためには細目を作ることは必須。ということで、ジレンマです。
- 41 アクセシビリティ、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティが行政・一般の経済活動の効率・安全性に無視できない要素であるため。
- 42 少なくとも学会として確立し、歴史もあるので、細目レベルではその位置づけを明確にすべきです。
- 43 あまり大枠だけ決めてしまうと「何でもあり」になってしまう気がします。バランスが難しいと思いますが、設定が重要かと思っています。
- 44 同じ人間工学といっても、コアとする技術分野が異なるので、結局のところ分科レベルで成り立つのかは心配。学会誌の掲載論文を見る限り、心理系と工学系はかなり異なる。それを無理に1つの分野にすると、どちらのメンバーの審査を受けるかわからず同じように不安になる。
- 45 人間工学を認知させるため、また研究費獲得の可能性を上げるためにも、意義あることと考え
- 46 人間工学の独自性として、衛生学等に並ぶ形で細目のところに選択領域としてあってほしい。